

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 04 01	中期総合計画主要施策番号		3 - 01,3-03		担当課	部・課	衛生部健康づくり支援課	
事業名		思春期保健事業				内線		2642		
						E-mail		kenko@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・思春期特有の問題及び、性に関する悩み等に対する相談や、正しい知識の普及を行うことにより、健康的で人間性豊かな母性、父性の育成が図られる。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】								
		・思春期の若者は悩みがあっても相談に結びつくことが難しい状態にある。 ・相談しやすい環境づくりが求められている。								
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】								
	事業内容	・対象者に対して保健所での思春期クリニック等に関する、情報が十分に行き届いていない。								
【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】										
実施期間	・地域の関係者の連携を図りながら地域における思春期保健対策の推進を検討していく。 ・悩み事は同世代の友達に相談しているため、仲間相談活動を促進する必要がある。									
	S63 ~		根拠法令等 都道府県及び市町村における母子保健事業指針、長野県健康増進計画							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	・思春期の子もたちが抱える健康問題に対して気軽に相談できる機会の増加を図る。 ・思春期の当事者が主体的に自らの健康問題へ取り組める取組みの拡大をする。		・思春期クリニックを前年度より増加させる。(500件程度) ・思春期セミナーの開催回数を前年度より増加させる(130回程度) ・思春期ピアカウンセラー養成講座を2回開催し50人程度育成する。			・思春期クリニックの相談は729件で前年度より258件上回った。 ・思春期セミナーの開催回数は140件で全年度より10件上回った。 ・思春期ピアカウンセラー養成講座は、2回開催し46人が参加し、概ね期待通りの人数が育成された。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	705	440	397	国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円	567	327		実施方法 直接			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	567	327	397	歳出節別 内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	2.00	2.00	2.00	報償費 273 旅 費 21 需用費 11 役務費 22			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	14,847	14,625	14,695	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	思春期クリニック相談者数		件	471	729	740	思春期ピアカウンセリング実施回数 7回			
	思春期セミナー実施回数		回	127	140	145				
	思春期ピアカウンセラー育成		人	69	46	70				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・思春期クリニックの相談件数が増加し、気軽に相談できる場所として周知されてきている。 ・思春期セミナーは性感染症予防など実情を踏まえ専門的な立場で引き続き実施する必要がある。 ・育成された思春期ピアカウンセラーは、地域により人数に差があり、活動地域や、学校の希望する日程が合わず、活動に制約が生じる場合があり効果的な実施方法を検討する必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・思春期ピアカウンセラーが、学校等からの要請に応じ、活発に活動できるようより効果的な実施方法を検討する必要がある。								